

若手プロジェクトリーダー育成支援プログラム

**1期生
支援終了!**

2014年度より始まった、未来の環境保全活動を担う人材育成を目的とする「若手プロジェクトリーダー育成支援プログラム」。1期生が3年間の研修を終え、昨年12月10日に開催された「平成28年度地球環境基金活動報告会」において、その成果を発表。当日は、1期生11名の他に3名のコメンテーターが出席し、今永正文氏（一般社団法人日本環境NPOネットワーク事務局長）の司会進行で、報告とトークセッションが行われました。



1期生への期待の言葉
発表会当日のコメンテーター3名の言葉です。



VOICE

見山謙一郎さん
事業構想大学院大学
特任教授

皆さん、研修を通して「横のつながりが強くなった」と実感したようですね。団体という組織の壁を超え、若手同士が横につながるといったことができれば、さらに大きな力になると思います。



VOICE

丸田千果さん
株式会社ラッシュジャパン
ブランドコミュニケーション

皆さんの意欲を強く感じました。自分たちが何を考え、何を目標にしているのかを伝えるため、ボールを外に向かって投げ続けてください。皆さんが投げなければ、キャッチボールは始まりません。



VOICE

福井光彦
独立行政法人
環境再生保全機構 理事長

本プログラムで何を学び、それをどう活動現場に持ち帰ったのかが、よく分かりました。これまでの経験を生かすとともに、学びをさらに深め、その成果をより多くの人に向けて発信してください。

活動成果報告から 刺激に満ちた 3年間に感謝!

最初に4名の研修生が、3年間で9回開かれた合宿研修を振り返りました（うち1名はカンボジアで活動中のためビデオレターで参加）。報告では、「最初はついていけるか不安でした。講師の方々から掛けていただいた言葉が今の私の原動力になっています」「信頼関係の作り方など多くのことを学び、刺激に満ちた3年間でした」「研修内容は幅広く、大勢の前でのプレゼンもうまくなりました」「学んだことを持ち帰り、仲間でシェアできてよかった」といった声がありました。

また、ある研修生は「普段は活動に集中するあまり、立ち止まってじっくり考える時間がなかったけれど、この研修を契機にこれまでの活動を振り返ることができ

た。また、他のフィールドで活動する仲間と交流する中で、自分の思いをきちんと言語化できるようになった」と、自身の確かな成長を話しました。

トークセッションから 団体のこれからと 自立を目指すために

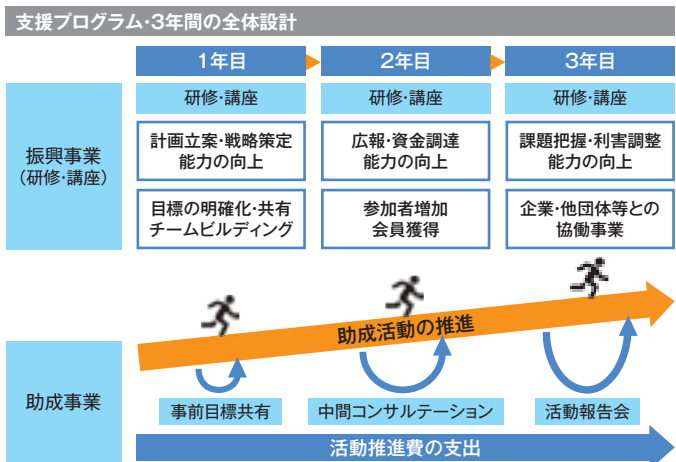
トークセッションでは、3年間の研修を受けた若手プロジェクトリーダーが、活動母体である所属団体の方向性と、自立に向けてどのように考えているかキーワードを掲示しながら説明した後、コメンテーターとの間で質疑応答が繰り広げられました。若手とはいえ、環境保全活動では既に実績がある皆さんだけに、理念にとどまらず具体的な内容を提示。「合宿ボランティア」「混じる」「依存多様性」といったユニークなキーワードからも、活動のオリジナリティー

や熱い思いが伝わってきます。短い時間にもかかわらず、有意義なトークセッションでした。

会場の声から 若きリーダーたちの 思いに感動

最後に、司会進行を務めた今永正文氏が、成果発表会に参加した一般来場者の方々に感想を求めたところ、次のような声を聞くことができました。「私も20代で活動していますが、周りは年上が多いので、皆さんのように若い人同士でネットワークができればと思いました」「面白い取り組みが多く、皆さんがイキイキと活動しているのに驚きました」などなど。

1期生を送り出したばかりですが、「若手プロジェクトリーダー育成支援プログラム」の輝かしい未来が予感できる成果発表会でした。



1期生は無事3年間の研修を終え、各団体において若手リーダーとして活躍されていくことが期待されています。続いて2期生9名（平成27年度～平成29年度）、および3期生12名（平成28年度～平成30年度）も育成支援プログラムに沿って研修を受けています。

本プログラムは、振興事業と助成事業を両輪とし、振興事業では3年間に活動戦略の立て方やファンドレイズなど9回の研修を実施。助成事業では、3年間の助成活動実施期間において年間上限300万円の活動推進費（賃金）を支援しています。